

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム常葉の家		
所在地	掛川市大坂398-1		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境を大切に、家事手伝いやレクリエーション等、施設での活動を通じて、楽しみや生きがいを感じられたり、入所者の笑顔が溢れ絶えない、そんな施設になる様、日々努めています。その人らしい生活が送れる様に、食事、入浴、排泄等、個々のニーズ合わせた支援をしています。施設に隣接している公園は、地域の夏祭り会場となっており、その様子を楽しんで頂いたり、四季も感じる事が出来ます。また、日常の散歩コースにもなっています。近くのスーパーへは、散歩をしながら、買い物に出かけます。外食として、回転寿司やファミリーレストランへ行ったり、テーマパークである掛川花鳥園へ遊びに行く等の外出も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前にある「大坂コミュニティ公園」は、気軽に散歩を楽しむだけでなく、お弁当を持参してピクニックを楽しんだり、地域住民との交流や災害時の避難場所としても利用することができる。奇数月の第3水曜日に開催している運営推進会議は、開催時間を変更したり、テーマを変えて勉強会を行ったり、参加しやすい工夫がなされていて、家族の参加が多い。掛川市事業所連絡会に参加し、市職員や他事業所との情報共有や意見交換を行っている。年間計画に従って法人社内研修が行われ、全ての職員が充実した研修を受ける仕組みができています。毎年「嗜好調査」を行い、職員が利用者個々の好みを聞き取り、献立作りや行事食作り役立てている。清掃は換気に配慮しながら利用者と共に職員が行い、清潔な空間が保たれている。同じエリアにある同じ法人の5事業所で、定期的に館長会議を開いて情報交換を行い、事業所運営に役立てている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活を送り、何らかの役割を持ちながら楽しく暮らす」という事業所理念をユニット事務所に掲示し、職員の共有意識として、実践に繋げている。	事業所の理念・目標を、事務所に掲示し、常に確認することができる。毎週月曜日の朝礼にて、法人及び事業所理念を確認している。連絡ノートを活用し、職員の情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	隣接している公園は、散歩の場として利用しており、同じく公園を利用している地域の方々と、挨拶やお話をするなど、触れ合う機会を持っている。	隣接する「大坂コミュニティ公園」は、利用する地域住民と交流する場として活用している。自治会の行事の秋祭りには、山車が事業所駐車場に立ち寄り、利用者皆で楽しむことができる。敬老会では、二胡やハーモニカ演奏を披露してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学校から福祉体験の依頼があり、2日間かけて10名程の生徒の受け入れをしている。中学校教諭の職場体験の依頼も受け入れた実績がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。入居状況、施設での活動、事故報告、社内研修の報告を行っている。行政、民生委員、ご家族を交えて、意見交換をしている。	年6回奇数月第3水曜日開催と決めているが、昼・夜交互に開催したり、薬の講話・感染症・記録の重要性等、毎回テーマを決めている。市職員・家族が参加しやすい工夫をしている。新型コロナ感染拡大防止のため3月以降は職員のみでの開催だが、議事録を送り情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会への参加をしている。運営推進会議では、施設での取り組みを伝え、意見交換や助言を頂いている。市より、介護相談員の派遣があり、報告内容より、施設運営に対しての気付きを得ている。	掛川市事業所連絡会(年4回)や地区ごとの分科会(内2回)へ参加し、地域事業所との意見交換を行っている。運営推進会議の議事録を持参し、常に意見交換できる関係を築いている。介護相談員からの報告は、職員で共有し、サービス向上に役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の社内研修の実施と、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。事例での意見交換や、実際の現場対応の仕方について話し合い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	3か月に1回「身体拘束適正化検討委員会」を行い、事業所での状況を話し合い、運営推進会議で報告をしている。指針を整備し、職員は年2回法人の社内研修にて、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や、身体拘束適正化検討委員会でも話し合いを行う機会を持っている。グループ全体の取り組みとして、管理者は、法人本部への年2回の虐待レポートの提出を行い、虐待防止についての意識を高め、職員全体へ浸透する様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者もいて、後見人との関わりの中で、それぞれの必要性に応じた支援を行っている。また、親族の後見人になっている職員の経験談も聞ける機会もあり、理解に繋がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居及び改定時には、重要事項説明書、契約書類の説明をさせて頂き、疑問等あればお聞きし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に、ご利用者の様子を伝える中で、要望等を伺っている。玄関には意見箱を置き活用している。ご家族とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。	請求書送付時には、担当職員が写真とコメントを添えて、利用者の事業所での様子を伝えている。運営推進会議への参加や面会の家族も多く、事業所への意見を聞きやすい環境を整えている。	コロナ禍では、家族の訪問機会が少なくなることから、家族の具体的な要望の聞き取り手段として、事業所運営に関する家族アンケート調査の実施を検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場では、常に気軽に意見交換が出来る環境にある。ユニット会議や職員会議の場においては、それぞれユニット単位や施設全体としての方向性について話し合う場を設けている。	毎月行う職員会議、毎週の朝礼、随時行うユニット会議やミニカンファレンスを意見交換の場として利用している。事務所内に月間予定を大きく掲示し、利用者・事業所の予定把握・情報の共有に役立っている。管理者は必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聴くことを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関する研修等の情報提供を随時行っている。資格手当、処遇改善手当の支給により、やりがいや向上心を持てるように努めている。賞与は、個人評価を採用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で規定の研修を行なっている。法人外の研修は、情報を提供し、自己啓発に向けて、個々のニーズ合わせ、自由に参加出来る環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会や南部大東ふくしあ主催の「つなぐ会」に参加し、静岡DCATの活動報告会や救命救急の講習会等の中で、意見交換をし、サービス向上に生かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人・ご家族との面談で得られた情報を、職員で共有し、不安無く施設生活に移行出来る様努めている。本人の意向を聞き、サービスに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で、これまでのご家族の思い、入所に際しての不安や意向を聞き、本人との関わりを一緒に考え、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでの情報において、ご本人の能力、健康状態等から、必要となる支援を見極め、初期の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設生活全般において、他のご利用者や職員との関わりを大切にしていける様に努めている。家事作業の共同参加や、会話の橋渡しにより、ご利用者様同士、支え合い、思いやり、いたわる光景も見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気兼ねなく、来所して頂ける様な雰囲気作りを心掛け、施設行事の参加の案内もしている。面会時や電話連絡の折には、生活の様子、健康状態等を伝え、その時に必要な支援を随時お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や、ご家族との外食、馴染みの美容室への継続利用で、これまでの関係性が継続する様支援している。	家族の協力のもと、年末年始に自宅へ帰宅、馴染みの店での外食や美容室への外出を行っている。友人が訪問してくることもあるが、入居期間の長い利用者にとっては、2か月に1回訪問理髪店を利用したり、事業所や職員が今後馴染みの関係となるような支援を心掛けている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性より、家事やレクリエーションの際の席の配置に気を配っている。時に職員が間に入り、話題を提供し、会話のきっかけになるなど、お互いの関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され、他の施設へ移る必要性が生じた場合には、転居先を相談される事もあり、その際には、系列の施設を紹介するケースもある。退去された方のご家族と、買い物先で会った時には、近況を伝えてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントより、これまでの生活習慣の把握をし、施設生活へと移行していく上でのニーズについて、ご本人・ご家族から話を聞く。ご本人から意向が伝えられない場合は、ご家族より、本人本位と思われる意向を伝えてもらう。	入居時に、事業所独自の情報収集票やフェイスシートを利用し、入居前の利用者の状況を把握している。納涼祭など行事での来所時や面会時を利用して、都度家族からの聞き取りを行い、利用者・家族の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所、利用中のサービス施設等からの情報収集、入居相談時のご本人・ご家族からの聞き取り、入居時に生活歴等の書面への記入について、依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上の介助介入に気を付けて、個々のご利用者のADLを正確に判断し、対応する。それにより、普段の様子の変化に対して敏感に感じる様にし、状態変化の早期発見にも繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画と現状に相違が生じたら、速やかにプラン内容の見直しを行う。状態変化に応じたサービス内容を、ご本人・ご家族の意向を交え、職員間で話し合い、ケアの統一を図っていく。	評価表(モニタリング実践記録表)を利用し、ケアプランの把握と3か月毎の変化の様子を常に把握しながら支援できる仕組みがある。利用者や家族の意向に変化があれば、介護計画の見直しについて、都度職員で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面や、いつもと違う日常変化、医療機関への受診の内容等を記載し、職員間で情報共有している。血圧数値に注意が必要な方については、個別に記録の管理をし、受診時に報告、主治医に指示を仰いでいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の体調や、何らかの理由で対応が難しい場合、そのニーズや緊急性により、通院、退院の支援や、買い物代行等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の公園やスーパーマーケット、外食施設等活用し、生活がより豊かで充実したものとなる様支援をしている。毎年、地域の納涼祭や祭典、中学生の福祉体験等、その雰囲気や人との関わりの中で、楽しい思い出作りとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向に沿って対応しており、かかりつけ医が遠方の場合の通院対応はお願いしている。それ以外の、内科のかかりつけ医への通院は、施設で対応している。月一回の定期受診や、定期検査の実施により健康管理を行っている。	家族の希望により、かかりつけ医を選んでいるが、遠方の病院や皮膚科・整形外科等の他科受診の場合は、家族の協力を得ている。看護師は週1回来所するほか、オンコール連絡で相談することができる。歯科は月1回、往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態、日常の様子、身体状況における本人の訴え等を伝え、気になる点は随時相談をしている。日々の状態観察の内容を記録で情報共有し、医療連携により、必要時に連絡が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携を図り、ご利用者の情報提供や、治療経過の様子を、電話連絡や病院面会時に伺っている。治療過程での施設復帰の判断や、退院の日程調整等も含めて、ご家族と共に連携し対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針として、終末期を迎えた時の、事業所としての考え、対応を伝え、ご家族に同意を得ている。看取り対応に関しては、ご家族が中心となり、多職種連携の下で行われる旨の説明、理解を頂いている。	重度化した場合の対応について、入居時に、利用者・家族に指針を説明し、同意を得ている。緊急時の連絡先を事務所内に掲示し、職員は法人社内研修にてターミナル研修を行い、緊急時に連携して対応する仕組みが整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で学ぶ機会があり、救急時の対応マニュアルを事務所に掲示し活用している。普通救命講習会や社外の勉強会への参加の促しを行っている。施設での救急搬送に関わる一連の流れについては、実践経験した職員が少ない為、経験値の底上げが必要と考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を、夜間想定を含め、年2回実施している。想定した災害別に、避難場所を屋上と駐車場に分け、避難方法もエレベーターを使用せず階段を使い、実際に即した状況で実施している。歩行困難なご利用者に対しては、男性職員が介助し、避難訓練をしている。	年2回防災訓練を実施し、避難方法や生活用水を風呂に溜めるなど、緊急時の対応を職員皆で検証している。備蓄品は、80食・136リットルを目安に、ローリングストック法で米や水を備蓄し、賞味期限を記したチェック表を備えて管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時等の声掛けには羞恥心に配慮し対応している。社内研修で、プライバシー保護、接遇マナーについて学ぶ機会がある。職員を身近に感じ、安心感、信頼感を得られる様、笑顔の表情や共感の姿勢、掛ける言葉にも温かみを持って接している。	毎年法人研修にて、プライバシー保護・接遇についての研修を受け、尊厳を大切にしたい支援を心掛けている。利用者に対してだけでなく、職員同士も声掛けや態度に留意して接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を汲み取れる様に、掛ける言葉や表情にも温かみを感じられる様接している。意向を伝えづらい方には、選択的な声掛けにより、自己決定しやすい様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いや希望を聞きながら、本人ペースでの生活支援を心掛けている。活動においても、押し付けにならない様、声掛けの仕方について配慮している。趣味や生活習慣の把握をし、前向きに取り組める様な活動の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選択出来る方は、好みの物を選んで頂き、困難な方に関しては、季節にあった物や同じ物ばかり続かない様に配慮している。散髪は2ヶ月毎に実施しており、自分好みの要求をされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で栽培した野菜を添える事で、食事に彩りが増し楽しむ事が出来る。ご利用者の中でも、農業に携わった方も多く、収穫の際には、昔を思い出しながら、とても生き生きしている。片付けも、日課として参加してくれるご利用者がいる。	食材は業者から仕入れているが、畑で収穫した野菜を加えて、季節の野菜を取り入れた食事を心掛けている。毎年行う「嗜好調査」は、利用者個々に職員が聴き取り、献立作りに役立っている。納涼祭のカレーライス・お正月のお節料理・誕生会の手作りケーキなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により、食事形態や、量を変え対応している。水分摂取量は個々に差があり、何度もおかわりの要求のある方や、本人が「トイレが増える」と1杯と決めている方等様々ではあるが、好みの飲み物の提供や、おかわりの促しにより、水分確保に努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療時に指導を受けながら、個別に対応している。出来る限り、ご自分で磨ける様支援し、磨き残しの確認により、仕上げのブラッシングをしている。嚥下状態に応じて、スポンジブラシと併せてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々に排泄状況の管理を行っている。尿意の感覚が鈍く、失禁に至る方の、時間での定期的な誘導や、意思表示のしづらい方の行動から気持ちを察する等、トイレでの排泄が行える様に支援をしている。	「排泄チェック表」で、声掛けのタイミングを確認し、トイレ利用を支援している。夜間もポータブルトイレを使用せず、職員が介助している。入居時には、同性介助など、利用者の意向・状態を観察し、適した対応ができるように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつの中には、お茶のおかわりを促している。お茶を好まない方もいて、飲んでもらえるもので都度対応し、水分補給をしている。運動に関しては、活動量や、本人の意欲にもよるが、ラジオ体操や散歩の働きかけを随時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、基本午後の実施としているが、環境面において、個浴を好む、温度、ゆっくり浸かりたい等、個々の希望に沿い対応をしている。体調面に配慮しながら行っている。	午後1時半から3時頃を目安に、週2回入浴を支援している。入浴拒否の場合は、日程を変更したり、シャワー浴や着替えを利用して誘導したり、利用者の状態・希望に配慮しながら支援するよう、心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて、居室やソファにて休息の出来る環境を作っている。散歩、外気浴や他の活動の促しや、季節にあった寝具の活用、空調の調整により、夜間の良眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴と薬の情報の把握、理解をしている。与薬に至るまでのチェック体制を作り、確実に服用出来る様支援をしている。薬の変更時には、状態観察の記録と共有を職員間で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの趣味や、出来る事を継続していただける様支援をしている。家事活動の場で、それぞれの能力に応じ、役割持って取り組める環境を作っている。嗜好品の買い物への同行を行い、楽しみとなっている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴への参加の他、外食の計画をユニットで行い、実施している。ご家族からの、その日予定にはない外出の依頼に対しても、対応が出来る様に努め、外食や人との関わりを楽しめている。	事業所前の1周500mある「大坂コミュニティ公園」は、地域住民との触れ合いや散歩・ピクニックを楽しむことができる。家族と共に花鳥園や外食へ出掛けていたが、コロナ禍の中でも、散歩や外気浴の外出機会を作るように心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行なっている。買い物や施設行事での外食は、ご家族の了承の下で行い、その際の支払いを個々の力に応じて支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、ご家族への連絡や、取り次ぎを行ったり、馴染みの方との手紙のやり取りの支援により、関係の継続に繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるホールの空調や、音響機器のボリューム等、個々に要求がある時は、それぞれ快適に過ごせる様に、席の配置や、風向き、換気等で配慮をしている。花や壁飾りで季節感が感じられ、興味を持ち、その花の手入れをしてくれている姿も見られる。	共有スペースは、床の掃除が行き届き清潔が保たれている。季節ごとに花や折り紙で作った壁飾りを飾り、季節を感じることができ。畑での野菜作りや事業所前の公園を窓から眺めることができ、利用者それぞれが居心地よく過ごすことができるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着いた場所でテレビを観たり、新聞を読んだり、また、ソファでは他の方と談笑し過ごしている。別のユニットにも行き来をし、会話やカラオケ等を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人、ご家族と相談し、使い慣れた物、馴染みのある物を用意して頂き、落ち着き、安心した生活が送れる様環境を作っている。入居後も、今の生活にあった居室作りを工夫している。家族の写真や写真を置いてある方が見られる。	エアコン・ベッド・クローゼット・洗面台が造り付けられている居室は、起床時には窓を開け、布団・ベッドや床の掃除を行い、清潔な室内を保っている。衣替え時には家族の協力を得て、整理整頓をしている。写真などを飾り、利用者好みの落ち着いた部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力の把握から、今ある設備を活用して出来る限り自立した生活が送れる様支援をしている。動線や床の状態等、安全面に配慮し環境整備を行っている。必要に応じて、各所に、場所の名前を貼り、理解に繋げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム常葉の家		
所在地	掛川市大坂398-1		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境を大切に、家事手伝いやレクリエーション等、施設での活動を通じて、楽しみや生きがいを感じられたり、入所者の笑顔が溢れ絶えない、そんな施設になる様、日々努めています。その人らしい生活が送れる様に、食事、入浴、排泄等、個々のニーズ合わせた支援をしています。施設に隣接している公園は、地域の夏祭り会場となっており、その様子を楽しんで頂いたり、四季も感じる事が出来ます。また、日常の散歩コースにもなっています。近くのスーパーへは、散歩をしながら、買い物に出かけます。外食として、回転寿司やファミリーレストランへ行ったり、テーマパークである掛川花鳥園へ遊びに行く等の外出も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活を送り、何らかの役割を持ちながら楽しく暮らす」という事業所理念をユニット事務所に掲示し、職員の共有意識として、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している公園は、散歩の場として利用しており、同じく公園を利用している地域の方々と、挨拶やお話をするなど、触れ合う機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学校から福祉体験の依頼があり、2日間かけて10名程の生徒の受け入れをしている。中学校教諭の職場体験の依頼も受け入れた実績がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。入居状況、施設での活動、事故報告、社内研修の報告を行っている。行政、民生委員、ご家族を交えて、意見交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会への参加をしている。運営推進会議では、施設での取り組みを伝え、意見交換や助言を頂いている。市より、介護相談員の派遣があり、報告内容より、施設運営に対しての気付きを得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の社内研修の実施と、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。事例での意見交換や、実際の現場対応の仕方について話し合い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や、身体拘束適正化検討委員会でも話し合いを行う機会を持っている。グループ全体の取り組みとして、管理者は、法人本部への年2回の虐待レポートの提出を行い、虐待防止についての意識を高め、職員全体へ浸透する様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者もいて、後見人との関わりの中で、それぞれの必要性に応じた支援を行っている。また、親族の後見人になっている職員の経験談も聞ける機会もあり、理解に繋がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居及び改定時には、重要事項説明書、契約書類の説明をさせて頂き、疑問等あればお聞きし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に、ご利用者の様子を伝える中で、要望等を伺っている。玄関には意見箱を置き活用している。ご家族とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場では、常に気軽に意見交換が出来る環境にある。ユニット会議や職員会議の場においては、それぞれユニット単位や施設全体としての方向性について話し合う場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関する研修等の情報提供を随時行っている。資格手当、処遇改善手当の支給により、やりがいや向上心を持てるように努めている。賞与は、個人評価を採用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で規定の研修を行なっている。法人外の研修は、情報を提供し、自己啓発に向けて、個々のニーズ合わせ、自由に参加出来る環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会や南部大東ふくしあ主催の「つなぐ会」に参加し、静岡DCATの活動報告会や救命救急の講習会等の中で、意見交換をし、サービス向上に生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人・ご家族との面談で得られた情報を、職員で共有し、不安無く施設生活に移行出来る様努めている。本人の意向を聞き、サービスに反映していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で、これまでのご家族の思い、入所に際しての不安や意向を聞き、本人との関わりを一緒に考え、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでの情報より、ご本人の能力、健康状態等より、必要となる支援を見極め、初期の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設生活全般において、他のご利用者や職員との関わりを大切にしていける様に努めている。家事作業の共同参加や、会話の橋渡しにより、ご利用者様同士、支え合い、思いやり、いたわる光景も見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気兼ねなく、来所して頂ける様な雰囲気作りを心掛け、施設行事の参加の案内もしている。面会時や電話連絡の折には、生活の様子、健康状態等を伝え、その時に必要な支援を随時お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や、ご家族との外食、馴染みの美容室への継続利用で、これまでの関係性が継続する様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性より、家事やレクリエーションの際の席の配置に気を配っている。時に職員が間に入り、話題を提供し、会話のきっかけになるなど、お互いの関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され、他の施設へ移る必要性が生じた場合には、転居先を相談される事もあり、その際には、系列の施設を紹介するケースもある。退去された方のご家族と、買い物先で会った時には、近況を伝えてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントより、これまでの生活習慣の把握をし、施設生活へと移行していく上でのニーズについて、ご本人・ご家族から話を聞く。ご本人から意向が伝えられない場合は、ご家族より、本人本位と思われる意向を伝えてもらう。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所、利用中のサービス施設等からの情報収集、入居相談時のご本人・ご家族からの聞き取り、入居時に生活歴等の書面への記入について、依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上の介助介入に気を付けて、個々のご利用者のADLを正確に判断し、対応する。それにより、普段の様子の変化に対して敏感に感じる様にし、状態変化の早期発見にも繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画と現状に相違が生じたら、速やかにプラン内容の見直しを行う。状態変化に応じたサービス内容を、ご本人・ご家族の意向を交え、職員間で話し合い、ケアの統一を図っていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面や、いつもと違う日常変化、医療機関への受診の内容等を記載し、職員間で情報共有している。血圧数値に注意が必要な方については、個別に記録の管理をし、受診時に報告、主治医に指示を仰いでいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の体調や、何らかの理由で対応が難しい場合、そのニーズや緊急性により、通院、退院の支援や、買い物代行等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の公園やスーパーマーケット、外食施設等活用し、生活がより豊かで充実したものとなる様支援をしている。毎年、地域の納涼祭や祭典、中学生の福祉体験等、その雰囲気や人との関わりの中で、楽しい思い出作りとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向に沿って対応しており、かかりつけ医が遠方の場合の通院対応はお願いしている。それ以外の、内科のかかりつけ医への通院は、施設で対応している。月一回の定期受診や、定期検査の実施により健康管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態、日常の様子、身体状況における本人の訴え等を伝え、気になる点は随時相談をしている。日々の状態観察の内容を記録で情報共有し、医療連携により、必要時に連絡が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携を図り、ご利用者の情報提供や、治療経過の様子を、電話連絡や病院面会時に伺っている。治療過程での施設復帰の判断や、退院の日程調整等も含めて、ご家族と共に連携し対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針として、終末期を迎えた時の、事業所としての考え、対応を伝え、ご家族に同意を得ている。看取り対応に関しては、ご家族が中心となり、多職種連携の下で行われる旨の説明、理解を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で学ぶ機会があり、救急時の対応マニュアルを事務所に掲示し活用している。普通救命講習会や社外の勉強会への参加の促しを行っている。施設での救急搬送に関わる一連の流れについては、実践経験した職員が少ない為、経験値の底上げが必要と考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を、夜間想定を含め、年2回実施している。想定した災害別に、避難場所を屋上と駐車場に分け、避難方法もエレベーターを使用せず階段を使い、実際に即した状況で実施している。歩行困難なご利用者に対しては、男性職員が介助し、避難訓練をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時等の声掛けには羞恥心に配慮し対応している。社内研修で、プライバシー保護、接遇マナーについて学ぶ機会がある。職員を身近に感じ、安心感、信頼感を得られる様、笑顔の表情や共感の姿勢、掛ける言葉にも温かみを持って接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を汲み取れる様に、掛ける言葉や表情にも温かみを感じられる様接している。意向を伝えづらい方には、選択的な声掛けにより、自己決定しやすい様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いや希望を聞きながら、本人ペースでの生活支援を心掛けている。活動においても、押し付けにならない様、声掛けの仕方について配慮している。趣味や生活習慣の把握をし、前向きに取り組める様な活動の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選択出来る方は、好みの物を選んで頂き、困難な方に関しては、季節にあった物や同じ物ばかり続かない様に配慮している。散髪は2ヶ月毎に実施しており、自分好みの要求をされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で栽培した野菜を添える事で、食事に彩りが増し楽しむ事が出来る。ご利用者の中でも、農業に携わった方も多く、収穫の際には、昔を思い出しながら、とても生き生きしている。片付けも、日課として参加してくれるご利用者がいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により、食事形態や、量を変え対応している。水分摂取量は個々に差があり、何度もおかわりの要求のある方や、本人が「トイレが増える」と1杯と決めている方等様々ではあるが、好みの飲み物の提供や、おかわりの促しにより、水分確保に努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療時に指導を受けながら、個別に対応している。出来る限り、ご自分で磨ける様支援し、磨き残しの確認により、仕上げのブラッシングをしている。嚥下状態に応じて、スポンジブラシと併せてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々に排泄状況の管理を行っている。尿意の感覚が鈍く、失禁に至る方の時間での定期的な誘導や、意思表示のしづらい方の行動から気持ちを察する等、トイレでの排泄が行える様に支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつの間では、お茶のおかわりを促している。お茶を好まない方もいて、飲んでもらえるもので都度対応し、水分補給をしている。運動に関しては、活動量や、本人の意欲にもよるが、ラジオ体操や散歩の働きかけを随時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、基本午後の実施としているが、環境面において、個浴を好む、温度、ゆっくり浸かりたい等、個々の希望に沿い対応をしている。体調面に配慮しながら行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて、居室やソファにて休息の出来る環境を作っている。散歩、外気浴や他の活動の促しや、季節にあった寝具の活用、空調の調整により、夜間の良眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴と薬の情報の把握、理解をしている。与薬に至るまでのチェック体制を作り、確実に服用出来る様支援をしている。薬の変更時には、状態観察の記録と共有を職員間で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの趣味や、出来る事を継続していける様支援をしている。家事活動の場で、それぞれの能力に応じ、役割持って取り組める環境を作っている。嗜好品の買い物への同行を行い、楽しみとなっている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴への参加の他、外食の計画をユニットで行い、実施している。ご家族からの、その日予定にはない外出の依頼に対しても、対応が出来る様に努め、外食や人との関わりを楽しめている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行なっている。買い物や施設行事での外食は、ご家族の了承の下で行い、その際の支払いを個々の力に応じて支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、ご家族への連絡や、取り次ぎを行ったり、馴染みの方との手紙のやり取りの支援により、関係の継続に繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるホールの空調や、音響機器のボリューム等、個々に要求がある時は、それぞれ快適に過ごせる様に、席の配置や、風向き、換気等で配慮をしている。花や壁飾りで季節感が感じられ、興味を持ち、その花の手入れをしてくれている姿も見られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着いた場所でテレビを観たり、新聞を読んだり、また、ソファでは他の方と談笑し過ごしている。別のユニットにも行き来をし、会話やカラオケ等を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人、ご家族と相談し、使い慣れた物、馴染みのある物を用意して頂き、落ち着いた生活が送れる様環境を作っている。入居後も、今の生活にあった居室作りを工夫している。家族の写真を置いてある方が見られる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力の把握から、今ある設備を活用して出来る限り自立した生活が送れる様支援をしている。動線や床の状態等、安全面に配慮し環境整備を行っている。必要に応じて、各所に、場所の名前を貼り、理解に繋げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム常葉の家		
所在地	掛川市大坂398-1		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境を大切に、家事手伝いやレクリエーション等、施設での活動を通じて、楽しみや生きがいを感じられたり、入所者の笑顔が溢れ絶えない、そんな施設になる様、日々努めています。その人らしい生活が送れる様に、食事、入浴、排泄等、個々のニーズ合わせた支援をしています。施設に隣接している公園は、地域の夏祭り会場となっており、その様子を楽しんで頂いたり、四季も感じる事が出来ます。また、日常の散歩コースにもなっています。近くのスーパーへは、散歩をしながら、買い物に出かけます。外食として、回転寿司やファミリーレストランへ行ったり、テーマパークである掛川花鳥園へ遊びに行く等の外出も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活を送り、何らかの役割を持ちながら楽しく暮らす」という事業所理念をユニット事務所に掲示し、職員の共有意識として、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している公園は、散歩の場として利用しており、同じく公園を利用している地域の方々と、挨拶やお話をするなど、触れ合う機会を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学校から福祉体験の依頼があり、2日間かけて10名程の生徒の受け入れをしている。中学校教諭の職場体験の依頼も受け入れた実績がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。入居状況、施設での活動、事故報告、社内研修の報告を行っている。行政、民生委員、ご家族を交えて、意見交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会への参加をしている。運営推進会議では、施設での取り組みを伝え、意見交換や助言を頂いている。市より、介護相談員の派遣があり、報告内容より、施設運営に対しての気付きを得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の社内研修の実施と、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。事例での意見交換や、実際の現場対応の仕方について話し合い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や、身体拘束適正化検討委員会でも話し合いを行う機会を持っている。グループ全体の取り組みとして、管理者は、法人本部への年2回の虐待レポートの提出を行い、虐待防止についての意識を高め、職員全体へ浸透する様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者もいて、後見人との関わりの中で、それぞれの必要性に応じた支援を行っている。また、親族の後見人になっている職員の経験談も聞ける機会もあり、理解に繋がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居及び改定時には、重要事項説明書、契約書類の説明をさせて頂き、疑問等あればお聞きし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に、ご利用者の様子を伝える中で、要望等を伺っている。玄関には意見箱を置き活用している。ご家族とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場では、常に気軽に意見交換が出来る環境にある。ユニット会議や職員会議の場においては、それぞれユニット単位や施設全体としての方向性について話し合う場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関する研修等の情報提供を随時行っている。資格手当、処遇改善手当の支給により、やりがいや向上心を持てるように努めている。賞与は、個人評価を採用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で規定の研修を行なっている。法人外の研修は、情報を提供し、自己啓発に向けて、個々のニーズ合わせ、自由に参加出来る環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会や南部大東ふくしあ主催の「つなぐ会」に参加し、静岡DCATの活動報告会や救命救急の講習会等の中で、意見交換をし、サービス向上に生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人・ご家族との面談で得られた情報を、職員で共有し、不安無く施設生活に移行出来る様努めている。本人の意向を聞き、サービスに反映していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で、これまでのご家族の思い、入所に際しての不安や意向を聞き、本人との関わりを一緒に考え、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでの情報より、ご本人の能力、健康状態等より、必要となる支援を見極め、初期の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設生活全般において、他のご利用者や職員との関わりを大切にしていける様に努めている。家事作業の共同参加や、会話の橋渡しにより、ご利用者様同士、支え合い、思いやり、いたわる光景も見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気兼ねなく、来所して頂ける様な雰囲気作りを心掛け、施設行事の参加の案内もしている。面会時や電話連絡の折には、生活の様子、健康状態等を伝え、その時に必要な支援を随時お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊や、ご家族との外食、馴染みの美容室への継続利用で、これまでの関係性が継続する様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性より、家事やレクリエーションの際の席の配置に気を配っている。時に職員が間に入り、話題を提供し、会話のきっかけになるなど、お互いの関係作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され、他の施設へ移る必要性が生じた場合には、転居先を相談される事もあり、その際には、系列の施設を紹介するケースもある。退去された方のご家族と、買い物先で会った時には、近況を伝えてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントより、これまでの生活習慣の把握をし、施設生活へと移行していく上でのニーズについて、ご本人・ご家族から話を聞く。ご本人から意向が伝えられない場合は、ご家族より、本人本位と思われる意向を伝えてもらう。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所、利用中のサービス施設等からの情報収集、入居相談時のご本人・ご家族からの聞き取り、入居時に生活歴等の書面への記入について、依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要以上の介助介入に気を付けて、個々のご利用者のADLを正確に判断し、対応する。それにより、普段の様子の変化に対して敏感に感じる様にし、状態変化の早期発見にも繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画と現状に相違が生じたら、速やかにプラン内容の見直しを行う。状態変化に応じたサービス内容を、ご本人・ご家族の意向を交え、職員間で話し合い、ケアの統一を図っていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面や、いつもと違う日常変化、医療機関への受診の内容等を記載し、職員間で情報共有している。血圧数値に注意が必要な方については、個別に記録の管理をし、受診時に報告、主治医に指示を仰いでいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の体調や、何らかの理由で対応が難しい場合、そのニーズや緊急性により、通院、退院の支援や、買い物代行等行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の公園やスーパーマーケット、外食施設等活用し、生活がより豊かで充実したものとなる様支援をしている。毎年、地域の納涼祭や祭典、中学生の福祉体験等、その雰囲気や人との関わりの中で、楽しい思い出作りとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向に沿って対応しており、かかりつけ医が遠方の場合の通院対応はお願いしている。それ以外の、内科のかかりつけ医への通院は、施設で対応している。月一回の定期受診や、定期検査の実施により健康管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態、日常の様子、身体状況における本人の訴え等を伝え、気になる点は随時相談をしている。日々の状態観察の内容を記録で情報共有し、医療連携により、必要時に連絡が取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携を図り、ご利用者の情報提供や、治療経過の様子を、電話連絡や病院面会時に伺っている。治療過程での施設復帰の判断や、退院の日程調整等も含めて、ご家族と共に連携し対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針として、終末期を迎えた時の、事業所としての考え、対応を伝え、ご家族に同意を得ている。看取り対応に関しては、ご家族が中心となり、多職種連携の下で行われる旨の説明、理解を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で学ぶ機会があり、救急時の対応マニュアルを事務所に掲示し活用している。普通救命講習会や社外の勉強会への参加の促しを行っている。施設での救急搬送に関わる一連の流れについては、実践経験した職員が少ない為、経験値の底上げが必要と考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を、夜間想定を含め、年2回実施している。想定した災害別に、避難場所を屋上と駐車場に分け、避難方法もエレベーターを使用せず階段を使い、実際に即した状況で実施している。歩行困難なご利用者に対しては、男性職員が介助し、避難訓練をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時等の声掛けには羞恥心に配慮し対応している。社内研修で、プライバシー保護、接遇マナーについて学ぶ機会がある。職員を身近に感じ、安心感、信頼感を得られる様、笑顔の表情や共感の姿勢、掛ける言葉にも温かみを持って接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を汲み取れる様に、掛ける言葉や表情にも温かみを感じられる様接している。意向を伝えづらい方には、選択的な声掛けにより、自己決定しやすい様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いや希望を聞きながら、本人ペースでの生活支援を心掛けている。活動においても、押し付けにならない様、声掛けの仕方について配慮している。趣味や生活習慣の把握をし、前向きに取り組める様な活動の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選択出来る方は、好みの物を選んで頂き、困難な方に関しては、季節にあった物や同じ物ばかり続かない様に配慮している。散髪は2ヶ月毎に実施しており、自分好みの要求をされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で栽培した野菜を添える事で、食事に彩りが増し楽しむ事が出来る。ご利用者の中でも、農業に携わった方も多く、収穫の際には、昔を思い出しながら、とても生き生きしている。片付けも、日課として参加してくれるご利用者がいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により、食事形態や、量を変え対応している。水分摂取量は個々に差があり、何度もおかわりの要求のある方や、本人が「トイレが増える」と1杯と決めている方等様々ではあるが、好みの飲み物の提供や、おかわりの促しにより、水分確保に努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療時に指導を受けながら、個別に対応している。出来る限り、ご自分で磨ける様支援し、磨き残しの確認により、仕上げのブラッシングをしている。嚥下状態に応じて、スポンジブラシと併せてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々に排泄状況の管理を行っている。尿意の感覚が鈍く、失禁に至る方の時間での定期的な誘導や、意思表示のしづらい方の行動から気持ちを察する等、トイレでの排泄が行える様に支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつの間では、お茶のおかわりを促している。お茶を好まない方もいて、飲んでもらえるもので都度対応し、水分補給をしている。運動に関しては、活動量や、本人の意欲にもよるが、ラジオ体操や散歩の働きかけを随時行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、基本午後の実施としているが、環境面において、個浴を好む、温度、ゆっくり浸かりたい等、個々の希望に沿い対応をしている。体調面に配慮しながら行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じて、居室やソファにて休息の出来る環境を作っている。散歩、外気浴や他の活動の促しや、季節にあった寝具の活用、空調の調整により、夜間の良眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴と薬の情報の把握、理解をしている。与薬に至るまでのチェック体制を作り、確実に服用出来る様支援をしている。薬の変更時には、状態観察の記録と共有を職員間で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの趣味や、出来る事を継続していける様支援をしている。家事活動の場で、それぞれの能力に応じ、役割持って取り組める環境を作っている。嗜好品の買い物への同行を行い、楽しみとなっている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴への参加の他、外食の計画をユニットで行い、実施している。ご家族からの、その日予定にはない外出の依頼に対しても、対応が出来る様に努め、外食や人の関わりを楽しめている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行なっている。買い物や施設行事での外食は、ご家族の了承の下で行い、その際の支払いを個々の力に応じて支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、ご家族への連絡や、取り次ぎを行ったり、馴染みの方との手紙のやり取りの支援により、関係の継続に繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるホールの空調や、音響機器のボリューム等、個々に要求がある時は、それぞれ快適に過ごせる様に、席の配置や、風向き、換気等で配慮をしている。花や壁飾りで季節感が感じられ、興味を持ち、その花の手入れをしてくれている姿も見られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着いた場所でテレビを観たり、新聞を読んだり、また、ソファでは他の方と談笑し過ごしている。別のユニットにも行き来をし、会話やカラオケ等を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人、ご家族と相談し、使い慣れた物、馴染みのある物を用意して頂き、落ち着いた生活が送れる様環境を作っている。入居後も、今の生活にあった居室作りを工夫している。家族の写真を置いてある方が見られる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力の把握から、今ある設備を活用して出来る限り自立した生活が送れる様支援をしている。動線や床の状態等、安全面に配慮し環境整備を行っている。必要に応じて、各所に、場所の名前を貼り、理解に繋げている。		